

鹿児島の植物 77

変な植物

植物担当 久保 紘史郎

皆さんは「植物」と聞いてどのような姿をイメージするでしょうか。サクラやツバキなどの樹木や、スマレやタンポポのような草本をイメージする方がほとんどだと思います。それらは共通して緑色の葉を持っています。しかし、植物の中には緑色の葉を持たず「なにこれ!？」とってしまうような「変な植物」があるのでご紹介します。

【栄養を横取りする植物】

植物は二酸化炭素や水を利用して、生きていくために必要な栄養を作ることができます。栄養を作るときには光が必要なので、光をしっかり吸収できるように緑色の葉を持っています。しかし、自分では栄養を作らず、ほかの植物が作った栄養を横取りする植物もいます。ナンバンギセルやキイレツチトリモチ、ヤッコソウなどです。これらの植物は自分では栄養を作らないため、光を吸収する必要がありません。そのため、緑色の葉を持たず、外見が茶色や黄色など一見するとキノコの仲間と思うような変な姿をしています。



ナンバンギセル(ハマウツボ科)
ススキなど、イネ科植物の根に寄生する。

【菌類に栄養を作ってもらう植物】

カビやキノコなどの菌類は、落ち葉や枯れ枝を分解して、生きていくために必要な栄養を得ています。この菌類の力を利用する植物がいます。ツチアケビやタシロラン、ムヨウランなどは、自分では落ち葉などを分解することができません。そこで根の中に特定の菌類を住ませ、その菌類が落ち葉や枯れ枝を分解してできた栄養を吸収して、生きています。自分で光を吸収して栄養を作らないので、栄養を横取りする植物と同様に緑色の葉を持たず、外見が白色や黒色など、普通の植物とは異なる特徴を持っています。



ツチアケビ(ラン科)

タシロラン(ラン科)



キイレツチトリモチ(ツチトリモチ科)
トベラやシャリンバイなど海岸近くに生育する小低木に寄生する。



ムロトムヨウラン(ラン科)

